

みんなの町議会



目次

- 9月定例会の経過 2
- 決算特別委員会 3
- 常任委員会の焦点 4~5
- 一般質問に5名登壇 6~10
- 議会を訪ねて 11
- 請願・陳情 12
- あれ なんと なったべが！ 13
- 励ましの人・がんばってます 14

No.116
2013年10月1日

最高の眺望と達成感を味わう

地域活性化支援センター 2社の入居が決まる

9月 定例会

議会の経過

9月定例会は9月5日から18日までの14日間の日程で開かれた。一般質問には5名が登壇し生活保護基準の引き下げ、5歳児検診、広域連合の推進、避難計画、特産品のブランド化などの質問をした。提出案件は平成25年度一般会計補正予算案、平成24年度一般・特別各会計決算認定案など24件。

渡邊町長は行政報告で、「旧馬場目小学校と旧馬場目保育園を活用した町地域活性化支援センターの空きスペースへ町内外の2社が入居することが決まった」と述べた。

行政報告のあと、決算特別委員7名で決算委員会を設置。代表監査委員による監査報告が行われた。各常任委員会、決算特別委員会の審査を行い、最終日には各委員長報告の後、全議案を全会一致で可決した。

人権擁護委員推薦案に同意、請願1件採択、陳情4件を採択、1件を継続審査とした。委員会提出議案の「地方財政の充実を求める意見書」など3件を可決して閉会した。



● 補正の主なもの ●

一般会計補正予算案は8,848万円。累計53億7,104万円。7月の豪雨災害による河川や道路の災害復旧費3,330万円、電源立地地域対策交付金事業で420万円が主なもの。

24年度一般会計決算は歳入53億4,593万円、歳出は50億8,923万円。繰り越しを除く実質収支は2億5,529万円の黒字。

第2回
臨時会
8月5日

西野橋橋梁上部工補修工事請負契約を締結した。
大川西野の西野橋の舗装、高欄、照明灯を改修する内容。

契約の相手方は株式会社菅与組五城目支店。契約金額は4,977万円（指名競争入札）

人権擁護委員推薦 に同意

再任 今村多恵子さん(65歳)



上 町

(佐々木仁茂)

決算特別委員会報告

平成24年度一般会計決算
平成24年度特別会計決算 8件

賛成多数
全会一致

認定



委員長
荒川達雄

決算委員会に付託された議案は、平成24年度一般会計歳入歳出決算はじめ特別会計歳入歳出決算8件の9件である。審査日程は9月10日より9月13日までの4日間。各担当課長、職員の説明を求め慎重に審査をした。

審査方針としては

● 町民の意見・要望が反映されているか。

● 行政運営が効率的かつ効果的に執行されているか。

● 健全財政を維持できる財政内容になっているのか。

● 将来的展望にたった行政運営なのか。

審査終了後、平成24年度一般会計決算については賛成多数で認定、特別会計決算8件は全会一致認定と決した。

認定に同意できない意見として出されたのは、消防庁舎建設予定地選定に対し建設協議会の答申にそったものでないこと、また、し尿処理場の建設予定の計画に対し進展していないことが主な理由となっている。

主な審査内容

消防本部

* 広域化に対しての対応方針の明確化、庁舎建設にあたり女性職員への設計対応の必要性など多岐にわたり意見が出た。

税務課

* 徴収率の向上を計り悪質な滞納者には、秋田県地方税滞納整理機構との連携で納付実績も出ていることを確認、計画的な税の確保を目指し、納税相談の実施・県税との合同催告・納め忘れの周知のPRなど今後の対策を確認した。

まちづくり課

* 企業誘致については近畿五城目会、東京ふるさと五城目会との連携、千代田区との姉妹提携から30年近くになる。経済交流が図れないか。

総務課

* 職員のマナー、服務規定の指導をしっかりとやってもらいたい。地域行事には進んで参加、奉仕する職員であってもらいたい。入札について落札率が高止まりではないか。今後予定価格の公表について検討することを確認。

商工振興課

* 朝市ふれあい館完成後の出店者数、買物客数はまだ増加していない。もっと努力すべきとの意見が出た。

農林振興課

* 特産品キイチゴの取り組みについては需要があることから、今後キャス冷凍設備を導入し、キノコ、山菜の加工など、通年出荷をめざすべきではないか。

学校教育課

* 五一中校舎の屋根が雪害で破損したが、今後同様の災害がおこらないよう指摘した。

生涯学習課

* 参加町内会が年々減少している全町体育祭の在り方、町民センター4Fのエアコン工事についての対応。

建設課

* 除雪対策は万全か、他市町村の取り組みを検討すべきではないか。

住民生活課

* 老朽化しているクリーンセンター、今後どうするか。先進地視察の計画はあるのか。消防団員の資格につい

ての意見も出された。

健康福祉課

* 間口除雪について、早めのPRが必要でないか。間口のみならず、利用しやすい方法も検討すべきである。



工事中の五一中校舎を視察

決算特別委員会

- 委員長 荒川達雄
副委員長 石井光雅
委員 澤田石亀雄
委員 畑澤洋子
委員 佐藤慶彦
委員 齋藤晋
委員 佐々木仁茂
委員 小林正志

(荒川達雄)

総務 常任委員会

町長・副町長の給料を減額

介護保険料の特別徴収分に、徴収誤りがあり、町長・副町長が責任をとり、給料を減額した。減額はそれぞれ給料月額100分の10を1ヶ月減ずるものであり、町長・副町長合わせて13万3,974円の減額となり、関係職員4人は文書による訓告処分とした。

委員 職員の処分は誰が決めたのか。

当局 分限懲戒審査会で決めた。

委員 分限懲戒審査会の委員構成と開催日はいつか。

当局 委員長は副町長、ほかに教育長、総務課長、会計管理者、担当課長の5名であり、8月28日に開催した。

委員 今後の再発防止の具体策は。職員の定数及び人事配置はどうなっているのか。

副町長 今回の件についてお詫び申し上げる。職員数は年々減少しているが、それに反し仕事は複雑、多岐に亘って来ている。人事配置については、長くなるとマンネリ化するので、各課とのヒアリングを行い、2年から3年で異動させている。再発防止に向けて、町長、副町長が時間の許す限り各課を回り、各課の

教育民生 常任委員会

五城目町子ども・子育て会議条例制定

国では、子ども・子育て関連3法が可決し、平成27年度から施行・実施される。それに伴い、町では、関連3法に掲げる事務を処理するとともに町が実施する各施策について調査審議する機関として、五城目町子ども・子育て会議を設置する条例を制定した。

委員 には、保護者会の代表などを想定しており、11月に1回目の会議が開催される。

町では、幼・保一体化が課題であったが、来年度から実施される予定である。

*子ども・子育て関連3法とは、急速な少子化の進行や都市部を中心とした待機児童問題や放課後児童クラブの不足、子ども・子育て支援が質・量ともに不足している現状など様々な課題を解決するための法律。



元気な子どもたち



現地説明会

25年度 中山遺跡発掘

9月1日(日)に中山遺跡の現地説明会、文化の館にて展示説明会が弘前大学により行われた。雨天にも関わらず町内外から約80名の見学者が集まった。今年度は、昨年度調査した箇所を再調査するとともに、昨年度発見されたクルミヤトチの捨て場がどの範囲で行われているかを確認するため新たな箇所を発掘調査した。今年度実施した発掘調査の成果も合わせて平成26年度に発掘調査報告書が弘前大学により刊行の予定である。

(佐藤 慶彦)

状況の把握に努める。今回は一人に仕事を任せてしまったこともあり、今後は複数の職員でチェックできる体制にし、まちがいがおこらないようにしたい。

件数及び金額

○過徴収分	3, 240件
3, 805,	390円
○不足徴収分	170件
761,	800円

地域活性化支援センター 2社に使用許可

6月より地域活性化支援センター施設の使用者を募集していたところ、プラスチック金型製造会社の「株式会社秋田モールド（五城目町）」と経営・教育コンサルタントの「ハバタク株式会社（東京都）」の2社から応募があり、8月16日に審査会を開催し9月4日付けで使用を許可した。支援センターは現在改修工事中で、10月下旬に完成予定であり、オープンイベントを企画している。今後も、入居者の

募集を継続しながら、支援センターを活用した起業セミナーや講習会、施設のPRイベント、地域住民も参加できる音楽会や体育祭など通年イベントの開催を予定している。



改修工事中の旧馬場目保育園

生活環境など維持管理協働業務

協働のまちづくり事業の一環として、町が管理している道路や公園、施設などの維持管理活動に、今年度29団体の申請があった。活動に必要な経費上限5万円まで町が支援するものである。

(石井 光雅)

委員会の焦点

多発する豪雨災害 補正予算決まる

7月12日から13日にかけて発生した豪雨災害5地区の農地農業用施設復旧工事請負費として1,000万円。五城目外環状線、河川の護岸決壊8箇所調査設計委託料、工事請負費として2,200万円。これらの災害復旧費は当初予算の不足分を補正したものである。

委員 復旧工事は、資材の調達、高騰などが懸念され予定通りできるのか。また査定は終わっているのか。

当局 五城目外環状線道路については、入札が終了業者が決った。農業災害分の査定は10月中旬の予定である。

委員 五城目外環状線道路は、重要路線であることから一日も早い復旧を求める。

こんなことを**審議**しました

産業建設 常任委員会



大きな被害の外環状線



深刻な農業災害

中央線歩道の 盛り上がり解消へ

中央線の歩道で、ケヤキの根が成長により盛り上がり、歩行者の支障となっていたことから、整備することになった。**委員** 何箇所実施するのか、これから街路樹の根を切っても大丈夫なものか。

当局 中央線の5箇所を予定しており、今までも同様の作業を実施しているので大丈夫である。



中央線の歩道

(佐々木仁茂)

一般質問

児童検診時に発達障害の見極めを 5歳児検診の実施

町長 児童検診の充実を期す



畑澤 洋子
(公明党)

畑澤 先天的に脳の一部がうまく働かない発達障害には、自閉症・アスペルガー症候群・注意欠陥多動性障害（ADHD）・学習障害（LD）などがある。LDの中にはトムクルーズ、エジソン、アインシュタインなど、世界的に著名な方々がいる。知的障害を伴わず、外見ではわかりにくい。話す・読む・書く・計算する・推論する能力など特定のものを習得することが困難な状態にある。

5歳児で見極め、早期に支援することが大事だ。これまでの対応と課題は、教職員の理解を深める教育は。

町長 早期発見には2歳6ヵ月以降の検診が重要。検診で発達障害を疑われる小児は、医師が専門機関へ紹介し、町は無料券を発行。今後も最新



児童検診の充実を期す

の知見を踏まえ、3歳児検診の充実を図る。

教育長 特別支援教育コーディネーターを、各小中学校に

地域支援システムの構築 介護支援ボランティアに「ポイント制度」の導入を

畑澤 「世界一の長寿社会」を可能にした社会保障制度の持続性を高めるため、社会保障制度改革国民会議が報告書をまとめた。柔軟かつ効率的にサービスを提供できるように、「要支援の人向けサービスは、段階的に市町村事業に移行する」と。介護支援ボランティアにポイント制度を開始する市町村が増えている。現在の

配置。実践的指導力の向上と校内支援体制の充実を目的に、各小学校内で研修を実施している。

要支援の人数、今後の推移は。改革が実行される時、どう支援、対応していくのか。

町長 現在の要支援認定者数は153人。今後も横ばいで、推移すると考えている。県と連携を取りながら持続的な対策や要支援など検討する。

「健康マイレージ事業」への取り組みを

畑澤 健康診断やチャレンジデー・町や地域で行われる健康講座・講習会に出席するともらえる施策。ためて商品券やごつくんカードなどに移行したりできる。未来づくり協働プログラムによる温水プール運動浴などマイレージ対象になる。高齢率・人口減少率の高い町にとって、インパクトのある施策と思う。

中山遺跡をどう活用するか

畑澤 中山遺跡発掘調査は町にとって有利な財産だ。有効活用するため、恒久的な施策を考えているか。

町長 健康づくりを行った町民に、ポイントや特典を与え、健康づくりの機運を盛りあげていくことは、町がめざす健康な町づくりの一環となる。課題を検討していく。

館、野鳥の森一帯を散策できるコースも検討していく。

畑澤 先陣を顕彰する伝承館を旧馬場目小学校に作る計画はどうなったか。

町長 候補地として考えていたが、地域活性化支援センターにした。町所有、個人所有のものを保護管理するため、データベース化し、五城館にて公開展示している。今後町内外にPRしていく。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

非核・平和の町宣言を 広く周知しよう!

町長 役場庁舎などへの掲示を
検討したい。



平和への誓いを新たに



石川 交三
(日本共産党)

石川 1988年にわが町は、憲法の不戦の誓い、平和主義を基に「非核・平和の町宣言」をした。改めて宣言文の全文を示してほしい。

町長 宣言文は次の通り。「世界の恒久平和は、人類共通の願いである。核兵器を廃絶して真の恒久平和を実現することは、世界唯一の核被爆国、日本国民共通の悲願であり緊急課題である。五城目町は、平和憲法の精

神と国是である非核三原則を守り、二十一世紀に向けて豊かな国土と平和な社会の建設を願い、非核平和の町を宣言する。昭和六十三年六月二十三日 五城目町」

石川 以前あった看板も無くなり、宣言の存在さえ知らない町民もいるのではないかと。看板設置や広報への掲載などで周知すべきではないか。

町長 いろいろな方法はあるが、役場庁舎などへの宣言文の掲示やホームページへの掲載なども含めて検討したい。

石川 学校現場での宣言文の活用を求めたい。廊下や教室への張り出しや授業での活用も可能ではないか。

教育長 世界で初めて原爆投下による惨禍を受けてから68年を経過し、戦争を知らない世代が多数となっている。宣言文は小中学校の歴史に

関係する授業で紹介できるよう各校に周知し、児童生徒に平和への思いを継承してもらいたいと考えている。

漫画「はだしのゲン」 閲覧制限問題と町の 対応を問う。

石川 松江市教育委員会が「はだしのゲン」の閲覧制限

を市内の小中学校に要請していた問題が発覚し、批判を受けて撤回した。わが町の教育委員会として「はだしのゲン」をどう評価しているか。

教育長 「はだしのゲン」は、作者が被爆体験を基に戦争の悲惨さを分かり易く描いている漫画として、高く評価されている作品と認識している。

残酷性を助長するような過激な表現にはあたらないと捉えており、学校現場でも自由に閲覧させている。

生活保護基準の引き 下げと影響は？

石川 基準引き下げは保護世帯にとどまらない影響があると思うがどうか。お笑い芸人の母が保護を受けていた問題が報道され、生活保護バッシングが広がった。新聞の投書欄にも「懸命に働く者や、少ない収入でも必死で頑張っている人が生活保護の人より報われないのはおかしい。だから基準引き下げは賛成だ」とあった。こういった気分・感情は理解できるが、さりとて生活保護を下げれば「公平」になつて、保護を受けずに頑張っている人が報われるかと言えそうではないと思う。我が町の実態と町長の考え

方を問いたい。

町長 生活扶助基準見直しは段階的に実施されることから、今年度では支給廃止や影響を受ける事業はない。不正受給での保護費停止はない。現在の保護世帯は122世帯だが、基準以下での生活世帯がいくらかは把握していない。

石川 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を権利として具体化したのが生活保護だ。どんなに頑張っても生活維持が困難な場合、権利行使として利用できるかと考えるがどうか。

町長 困った人はだれでも保護申請ができ、平等に受けることが出来る。保護対象者だけでなく、困窮している町民に対してあらゆる支援を図り五城目町に住んで良かったと感じられるよう努力していく。

その他に

○「間口除雪」を使い勝手の良いように改善しよう。

○湖東病院の救急再開の見通しと、町のすべきことは。

○テレビの「人生の楽園」の放映が決まった。故郷紹介の番組をもっと誘致促進しよう。

質問しました。

一般質問

最低でも10年20年先を見据えた計画と事業推進を



佐藤 慶彦
(無党派)

佐藤 今後の町財政を考える上で公共建築物の更新は非常に重要な問題である。公共施設の種類としては学校や公民館、スポーツ施設、観光施設、役場、消防署などのハコモノ。道路、公園、上下水道、橋梁などのインフラ。クリンセンターなどのプラントがある。この問題に先進的に取り組んでいる神奈川県秦野市を視察し、資料などを当局へ提供した。まず取り組みやすいハコモノの把握から始めてはどうか。

町長 総務課においてハコモノの公共建築物概要調査をとりまとめる。

佐藤 スケジュール的な目標はいつか。
町長 年内に行く。



老朽化し更新の時期が近づいている公共建築物

先進地に学べ

佐藤 福祉事務所（生活保護や児童福祉、母子・寡婦福祉などに関する事務を扱う）の設置は町村単独でも出来る。全国的に町村での単独設置は増大しており、メリットも多いため検討が必要である。

町長 現在秋田県で設置している町村はない。設置した場合、町のメリットとしては、住民サービスの向上や権限拡大が想定される。現在は中央福祉事務所（潟上市）の指導のもと福祉サービスが行われている。

佐藤 鳥取県などは15町村のうち13町村が設置している。先がけてすべきである。

小中併設の考えは

佐藤 町の年齢別人口の推移を見ると1学年35人以下の「1学年1学級」が近い将来に迫ってきた。様々な面から小中学校を併設すべきと考え、その場合、現五中の中9クラスを受け入れられるのか。それとも改築予定の五小がその受け皿となるのか。

教育長 現五中では、9クラス受入れは可能だが小・中それぞれの特別支援教室や特別教室の配置が取れず、職員室や会議室などの改修も必要であり、大変厳しいものがある。改築予定の五小を小中併設校として建設するかについては、今後の検討委員会では工法や小中併設なども含め検討を加えその方向付けを定めていく。

佐藤 将来的に、特に財政の観点から周辺町村との合併の機運が高まることは十分に考えられる。そうなった時に五城目町だけが小中別々にあり財政負担が大きいというのは避けなければならない。

大川地区の今後を 考えよう

佐藤 統合について話し合われている大川小の建物、土地

をどうしていくか。

教育長 今後の大川小学校について保護者と意見交換の場をもったところであり、校舎の活用については、統合が具体的になった段階で検討していくべきものと考えている。
佐藤 早期に話し合っていくべきである。



大川小の子どもたち

町広報の充実を

佐藤 平成26年度更新予定の町ホームページはどのようなものになるか。

町長 現在の担当課による一元管理の体制を、各担当課でも速やかに情報発信ができる体制へと切り替えられるようなシステムとしたい。ご提言いただいたアクセス解析やバナー広告などの導入、五城目町としての広報活動を行う上でふさわしい形でのリニューアルにしたい。

一般質問

今年の除雪は大丈夫か

町長

住民からの要望に しっかり対応していきたい



齋藤 晋
(21期会)

町有施設の総合管理台帳は有るか

齋藤 町有施設を管理するためには、施設を全部まとめた台帳が必要だが有るのか。

町長 建設年月日などを考慮して一元的に管理するのが管理の鉄則である。無かったら早急に整備するべき。

町長 各担当課で様式は統一されていないが管理台帳は整備している。

齋藤 施設の管理計画及び修繕計画は有るのか。

町長 限られた財源で緊急を要するものや優先順位の高いものから修繕を実施。今後総合発展計画に基づく事業を実施しながら将来的な施設管理について検討したい。

齋藤 町民が安心して町の施設を使用できるように、施設

の管理を計画的に進めるのが町の責務である。

避難計画は万全か

齋藤 避難準備情報・避難勧告・避難指示を出すまで、どのような段階を踏むのか。9月1日から運用された「特別警報」について説明を。

町長 「避難準備情報」は、避難行動に時間を要する方々を安全円滑に避難誘導させるために通知する。

「避難勧告」は、人的被害の可能性が高まったとき、被災する恐れのある地区の住民や観光客に対し、避難場所へ避難を促す通知。

「避難指示」は避難勧告より状況が悪化したとき、人的被害の発生が非常に高まったときに通知する。



町の避難所

「特別警報」は、警報の発表基準をはるかに超える異常な現象が予想され重大な災害が

起こる恐れが著しく大きい場合に発表される。

齋藤 避難指示を過去に通知したことが有ったか。

町長 過去10年間で2回1回目 平成19年9月の豪雨災害で馬場目川の氾濫により、平ノ下地区・田町・昭辰町に通知。

2回目 平成21年7月の豪雨災害で馬場目川の氾濫により、平ノ下地区に通知。

齋藤 町の防災計画は平成22年に改訂されたものであるが、震災後自然災害の基準が大きく変わっており、県の防災計画も改訂される。町民が安心できる防災計画に改訂し、住民全員が理解できるように周知徹底すべき。

今年の除雪計画は昨年と同じか

齋藤 昨年と同じ除雪計画か。

町長 契約の内容は基本的に変わっていないが、4月23日に開催した除雪総括会議の中で出た要望と反省を踏まえ、今年の除雪会議に住民の代表からも入っていたことや出動のタイミング、初期除雪の徹底、道路パトロールの強化、除雪業者への指導の徹底などを強化し要望にしっかり対応していきたい。

県道 秋田八郎潟線の歩道の安全確保(五城館前通り)

齋藤 ケヤキの根の成長のため歩道がデコボコで安全に通行できない。町民の安全のためどう対処するか。

町長 町のメインストリートであるので、隆起した根を掘削・除根し補修する。鉄平石を剥離してアスファルト舗装に変更したい。



あぶない歩道のデコボコ

- その他に
 - 町有施設の管理責任者は誰
 - 特産品開発・宣伝売り込みにもっと力を
 - 特産品の加工所設立を
 - 町広報へ新生児写真真員掲載すべき
- 質問しました。

一般質問

特産キイチゴをブランド化し 全国へ売り込もう

町長 「6次産業化整備支援事業」で 支援する



佐々木仁茂
(21期会)



収穫最盛期のキイチゴ

佐々木 特産品のキイチゴの生産をさらに拡大し、6次産業化で町のブランド品として全国へ発信すべきだ。
町長 産学共同研究からの成果を基に更に大学との連携を強化し事業を推進していく。所得の向上や本町キイチゴの知名度を上げるためにも、研究会や販売会でも6次産業化を視野に加工品開発の必要性

幼稚園、小中学校での 命に係わる危機管理を問う

を認識している。国、県が促進している「6次産業化整備支援事業」の活用を図り、現在の研究会から法人化を目指し、栽培面積の拡大や新たな加工品開発に取り組みむべきであり、新規事業実施に至る時は、支援したい。

すぐ連絡が入り、養護教諭が処置をし、状況によっては校長の判断で救急車を呼ぶ場合もある。その一連の流れは、年度当初に全職員で確認をしている。今回のケースは、保護者に連絡をするともに、ケガをした腕の部分を固定し、保護者が子供を病院へ連れて行った、というもので、適切な判断だった。

佐々木 今年の2月、五小6年男子児童が昼休み時間に体育館脇の雪山で遊び、全治3ヶ月の大ケガをしたが学校側の対応は適切だったか。
教育長 雪山については、危険な場所だとは認識していない。またこのような事故が起きた場合、現場職員から校長、教頭

校外の危険箇所の 認識と対策は



危険がいっぱい

佐々木 校外の危険な箇所としては河川、用水路、ため池、管理されていない空き地や空き家などがある。PTAの危険を知らせる看板を見かけるが、まだ見過ごされている危険箇所がある。どのように対応するのか。
教育長 PTAの校外生活指導部会で、毎年各地区の危険箇所を調査し、その要望により看板設置などの対策を講じている。特に今年は、五城目小学校と馬場目小学校の統合1年目であり、馬場目地区PTAを開催して危険箇所の確認をした。

災害対応の徹底を

佐々木 町のハザードマップに示されている土砂災害危険

区域は大丈夫か。
町長 県では現在、地域防災の見直しを行っている。町としては、最新の情報を町の災害発生時の対応や、地域防災計画などに反映していく。

各課の苦情処理の 対応は

佐々木 町民が役場へ苦情処理をお願いしたが、適切に対応してくれなかったとのことだ。各課に寄せられた町民の苦情は、課の上部まで報告され適切に処理されているのか。
町長 今回指摘された件は、職員の対応に指導が徹底されていない点があり深く反省している。今後は、職員全体が町民の負託に応えるべく、真摯にかつ思いやりのこもった行政運営に努め、職員間の情報共有と上司への相談、報告の徹底をこれまで以上に図りたい。

その他に

- 五小の水道管は大丈夫か
- 人農地プランで担い手確保の見直しは
- 高岳地区の圃場整備の促進を

質問しました。

議会を 訪ねて

日本赤十字秋田看護大学

石井 大輔
佐々木 美穂
佐藤 未来



私たち3人にとって議会を傍聴するということは初めての体験でした。町の人々の要望や意見などを聞くことが出来、五城目町の現状についてよく分かりました。

今回の議会では、「湖東病院の救急再開の目途」についての一般質問がありました。五城目町では高齢者が多く、脳血管疾患の罹患率も高いので、地域唯一の総合病院である湖東病院の救急再開は町民の願いであり、今後の課題でもあると考えました。医師確保のための運動とPRを町全体として取り組んでいこうとする姿勢は、五城目町をよりよい町にしようとする意欲や向上心を強く感じることが出来ました。

今後、私たちは11月に五城目町のみなさんを対象に健康教育を行っていかうと考えています。今回の議会傍聴を私たちの今後の学習や活動に生かしていきたいと思えます。

議員研修報告

佐藤 慶彦

研修期間 平成25年8月19日～23日
研修先 滋賀県大津市・全国市町村国際文化研修所
研修名 市町村議会議員研修・社会保障・社会福祉基本コース

全国から43名の市町村議会議員が参加。女性は7名の参加。講師は中央大学法学部の新田秀樹教授。初日はオリエンテーションと交流会。2日目から4日目までは午後5時まで受講。各制度についての概念や歴史、法律、財政そして現状課題を学んだ。そこからは班ごとに午後10時ごろまで討議し、最終日に向け発表資料を作成する日程であった。

●2日目 社会保障と社会福祉の講義。
●3日目 介護保険と高齢者福祉、医療制度、医療保険。
●4日目 少子化対策と児童福祉、障害者福祉、生活保護。他には、滋賀県野洲市の包括的支援による生活相談の取り組みについて先進的な事例の紹介があった。最終日、8班の発表と質疑であった。私の班は6名であり、「これからの低所得者施策のあり方」について討議し、意見をまとめ、発表した。



最終日の発表の様子

今回の研修で学んだ、社会保障・福祉の分野は複雑多岐に渡り、今現在どんな広がりを見せている。国から県へ、県から市町村へ、年々裁量が増えており、町として取れる最善の選択への提言ができるよう、また漏れがないように注視していきたい。今後も可能な限りさまざまな研修を受け、そこで学んだことを町民の福祉の向上に役立てて行きたい。

南秋田郡町村議会議員大会

日時 平成25年8月2日(金) 午後2時～
会場 井川町役場大会議室
講演 演題「最近の金融経済情勢と秋田県経済を巡る論点」
・講師 日本銀行秋田支店 支店長 小田 信之氏

大会決議

1. 湖東総合病院の医師確保と救急医療体制の確立を期する
1. 八郎湖水質浄化の抜本的な対策の早期推進を期する
1. 松くい虫被害対策及びヤマビル被害対策の一層の推進を期する
1. 秋田中央地区広域農道の早期昇格を期する
1. 主要地方道秋田八郎潟線及び一般県道道村大川線、北ノ又井川線の早期整備を期する

参加者

小林正志、荒川達雄、佐々木仁茂、齋藤晋、石井光雅、佐藤慶彦、畑澤洋子、伊藤正春、佐藤重信、舘岡隆、荒川正巳、千田峯夫、石川交三、工藤卓美、澤田石亀雄
議会事務局 伊藤直勝、工藤成子

主催 南秋田郡議会議長連絡協議会

議会議員全員協議会

8/26

協議案件

子ども・子育て会議設置について

子どもや子育てを取り巻く社会状況、子育て支援の現状や課題を踏まえ環境を整備していくため設置するもの。

報告案件

- (1) 介護保険料(特別徴収)の徴収誤りについて
- (2) 五城目町地域活性化支援センター使用候補者認定等に関するについて
- (3) 豪雨災害の農地・農業用施設の被災概要について
- (4) 豪雨災害の公共土木施設の被災概要について

(伊藤 正春)

請願 陳情

請願

採択 ◆「協同労働の協同組合法（仮称）の速やかな制定を求める意見書」に関する請願書

日本労働者協同組合連合会事業団
秋田・大仙事業所
所長 岡田 俊介
（紹介議員 畑澤 洋子）

陳情

採択 ◆「経済・雇用対策強化のための地方財政の充実を求める意見書採択に関する陳情書」

連立秋田男鹿潟上南秋地区連絡会
議長 渡部 仁史

採択

◆「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情について

全国森林環境創設促進議員連盟
会長 板垣 一徳

採択

◆「消防署移転建設地誘致に係る陳情書」

富津内地区町内会長会
会長 原田 行雄

継続審査

◆年金2・5%の削減中止を求める陳情

全日本年金者組合秋田県本部
湖東支部 支部長 土橋 茂

意見書送付

議院各議員が提出した意見書は、関係機関に送付されました。

経済・雇用対策強化のための地方財政の充実を求める意見書について

提案理由

公共サービスの質の確保と地方自治体の安定的な行政運営を実現するため、2014年度の地方財政計画における十分な地方交付税総額確保を求めるため。

提出先

衆議院議長 伊吹 文明
参議院議長 山崎 正昭
内閣総理大臣 安倍 晋三
総務大臣 新藤 義孝
財務大臣 麻生 太郎

提案理由

「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書について

協同労働の協同組合は、住民事業による住民主体のまちづくりを創造するもの

であり、働くこと、生きることに困難を抱える人々自身が、社会的連携の中で仕事をこなし、社会に参加する道を開くことを求めるため。

提出先

衆議院議長 伊吹 文明
参議院議長 山崎 正昭
内閣総理大臣 安倍 晋三
厚生労働大臣 田村 憲久
総務大臣 新藤 義孝
経済産業大臣 茂木 敏充

「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」を求める意見書について

提案理由

自然災害などの脅威から国民の生命財産を守るための森林、林業、山村対策の抜本的な強化を図ることに加え、二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備、保全等を推進する市町村の役割を踏まえ、「石油石炭税の税率の特例」による税収の一定割合を森林面積に応じて譲与する仕組みの構築を求めるため。

提出先

内閣総理大臣 安倍 晋三
財務大臣 麻生 太郎
総務大臣 新藤 義孝
農林水産大臣 林 芳正
環境大臣 石原 伸晃
経済産業大臣 茂木 敏充
衆議院議長 伊吹 文明
参議院議長 山崎 正昭

秋田県町村議会 広報研修会

日時 平成25年7月23日（火）午前10時30分～
場所 アキタパークホテル

講演 演題 「議会広報に求められるものは」

講師 広報コンサルタント 深沢 徹氏

参加者

佐々木仁茂 齋藤 晋 石井 光雅
佐藤 慶彦 畑澤 洋子 伊藤 正春
石川 交三 荒川 達雄 小林 正志
議会事務局 伊藤 直勝

秋田県町村議会議員研修会

日時 平成25年7月23日（火）午後1時15分～
場所 秋田県市町村会館

講演

演題 「これからの町村議会のあり方」

講師 中央大学大学院教授 佐々木信夫氏

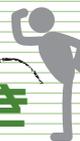
● 演題 「今後の政局のゆくえ」

● 講師 日本大学法学部教授 岩井 奉信氏

参加者

佐々木仁茂 齋藤 晋
石井 光雅 佐藤 慶彦
畑澤 洋子 伊藤 正春
佐藤 重信 舘岡 隆
荒川 正巳 千田 峯夫
石川 交三 工藤 卓美
荒川 達雄 小林 正志
議会事務局 小藤 正志
伊藤 直勝 工藤 成子





あれ



なんとになったべが!

平成24年9月定例会一般質問より

問

大槌町支援で、毎年一定数量のコメを送ろう!

答

支援内容について、大槌町から切り出しにくいとも考えられるので、話し合いたい。

今年度については、

9月号の広報に掲載したとおり、昨年と同量を送る予定で、その半分(2,100kg)を

現在

平成24年度については、大槌町より「仮設住宅の入居戸数分について、1戸当たり2kg」との希望でしたので、町で予算化し送っている。

町民からも協力していただき、進めることにしている。

町民の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

問

企業誘致活動の進捗状況は怎么样了なっているか。

答

調査業務で1,000社にアンケート調査をし、企業訪問をする。基金を活用しての職員研修派遣も可能である。企業誘致用パンフレットも必要だ。

現在

企業へのアンケート結果をもとに、企業立地戦略を策定し、昨年

度開設した東京千代田事務所を拠点に、企業訪問や各種セミナー等へ参加するなどして人脈拡大に努めている。

10月にオープンする、地域活性化支援センターに2社の入居が決定するなど、誘致活動の効果徐徐にでてきている。

問

ダイサンスーパー前で交通事故が発生している。事故原因の一つと思われるケヤキの伐採ができないか。

答

信号機や交通標識の見通しなど、警察と連携をとっている。将来にわたって街路樹で見通しが遮られる場所は伐採する。

いて農協スタンド前

の交差点から雀館幹線十字路までの218本のうち26本を11月に伐採を行いました。

現在

街路樹の間隔や景觀など全体のバランスをとりながら、見通しが悪い場所、道路照明、看板などの視認が悪い箇所につ



問

学校給食での食物アレルギー対策は万全か。

答

食物アレルギーを有する児童生徒は増加傾向にある。実態に応じたマニュアル作成を関係機関と協議していく。

現在

本町のマニュアルづくりに向け、関係機関と情報交換をしているところであり、年度内完成を目指す。

励ましのひと

グループホームすずめだて

介護員 加藤 雪夫さん
(高崎)



● 仕事はどうですか。

加藤 木材の仕事からの転職だったので大変でしたが、施設長や職員の皆さんに助けられ、毎日が勉強でした。

● 大変だった事は。

加藤 未経験の仕事だったので、入居者様に事故や怪我のないように、職員の皆様と連携を取り、介護することですばいでした。

● 心に残る出会いは。

加藤 毎日が出会いです。楽しく明るく過ごしてほしい。ご家族に安心して頂きたい。この思いだけががんばれます。

● 介護の分野に男性は珍しいのでは。

加藤 そうでもないと思います。職場で現在3名働いています。

● 町政や議会にご意見を。

加藤 若者が住みたい環境にして、高齢者と共に楽しく過ごせる町づくりを望んでいます。

(取材：畑澤洋子)

● 介護の仕事をして何年になりますか。

加藤 12月で4年になります。子供達が介護関係の仕事をしており、話をきき興味が湧き影響され、ヘルパーの資格を取得しました。

がんばってます



五城目小6年
渡部 真衣さん
(水沢)

五城目小学校メロディクラブは今年5月から活動しています。4年生から6年生までの20人で週1回の練習を頑張っています。

私がメロディクラブに入った理由は音楽が好きで、特に歌うことが大好きだったからです。また、参観日の音楽の時間にクラスのみんなで合唱したとき、先生やお母さんたちがほめてくれたことと、クラスの全員で歌い、達成感を味わえたことが忘れられなかったからです。

結成して間もないクラブが8月のNHK合唱コンクールに出場することになり、練習も多くなりました。

夏休みは暑くて大変な日が続きましたが4年生や5年生が頑張っている姿を見て6年生がしつかりしなければと思います。がんばることができました。そしてそれから私の目標は自分が楽しいだけではなく、聴いてくれる人が少しでも感動し、笑顔になってくれる合唱を目指すことになりました。

このコンクールの経験を通して6年生の団結力がさらに強くなり、クラブみんなの気持ちが一つになったと思っています。

私たち6年生はあと半年で卒業です。メロディクラブにいる時間はそう長くありませんが、残りのクラブの時間を大切に、クラブのみんなと協力して最高の合唱を作りあげていきたいです。

(取材：佐藤慶彦)

編集 後記



台風18号による大雨は、わが町にも大きな被害を残して通り過ぎた。9月議会終了後に全議員で被害箇所を視察したが、道路の路肩決壊に溜息をつき、畳のように倒伏した稲を目の当たりにし、農家の難儀に思いを馳せた。

地球温暖化の影響なのか、天変地異が短いスパンで連続している感がある。

福島第一原発の収束は見えず、大震災の被災者は苦難の生活を余儀なくされているが、そんな中に明るいニュースもある。町民の「命の恩人」である岩手県大槌町のホテルが営業を再開した。日本人は忘れやすい民族と外国から評される所もあると聞くが、大震災と町民を助けてくれた大槌町の人々のことは決して忘れまいと心に刻みたい。

大槌町の仮設住宅に住んでいらっしゃる2,100世帯の方々に我が町は復興支援米を送る。一人一人が持ち寄った「あきたこまち」で、感謝の思いと、復興の願いを届けたいものである。

石川 交三記